

伊達地域における新規就農者の確保・育成を目指して

県北農林事務所伊達農業普及所

1 背景・ねらい

- 伊達地域は野菜・果樹などの園芸作物を栽培する生産者が多く、全経営体数のうち野菜が40%、果樹が57%を占めている。
- 園芸作物は機械化が困難な栽培管理や収穫調整作業が多く、高齢化や労働力不足による廃作者は毎年増加傾向にあることから、今後の産地維持発展のためには、多くの新たな担い手が必要。
- 一方で地域の中心を担う認定農業者にあっても高齢化が進んでおり、担い手不足が顕在化している。



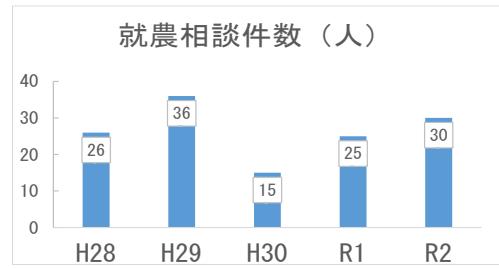
今年26億円を達成したきゅうり

ねらい：新規参入者やJターン等の多様な人材を担い手として誘導し、育成する

2 活動内容

(1) 就農相談対応と新規就農者の確保

- 関係機関と連携し、年間20～30名程度の就農相談に対応。青年等就農計画作成支援を実施。
- 新たに農業経営を開始した認定新規就農者を重点指導対象者とし、所内の担い手育成チーム員や専門担当で定期的に訪問し、栽培技術指導等の個別支援をきめ細かに実施。



※令和2年度は12月中旬現在

(2) 関係機関と連携した支援の実施

- 管内市町の「農業次世代人材投資資金交付対象者サポートチーム」の構成組織として対象者を訪問し、就農状況を確認するとともに、経営上の課題に対する助言や技術面でのきめ細かな指導を実施している。



サポートチームによる訪問活動

- 普及指導員が講師を務めるJAふくしま未来伊達地区主催の「農業塾（きゅうり、もも）」へ新規就農者の受講を働きかけ、同塾において、土づくり、栽培管理や病害虫防除等について、実際のほ場での実技も含めた講義・指導を実施（年6回）。同塾では、毎年度20～30名が受講。

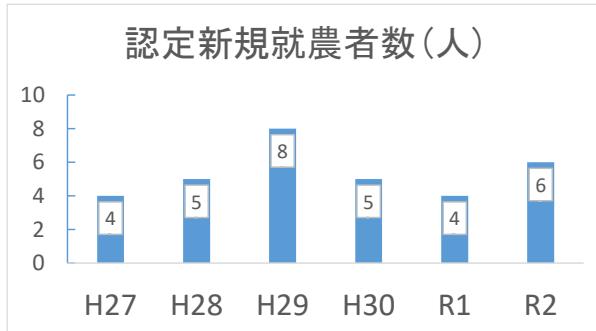


くにみ農業ビジネス訓練所参観デーにおける就農個別相談会

- 国見町に平成30年に開所された「くにみ農業ビジネス訓練所」と連携し、研修者の就農相談への対応や参観デーにおける新規就農支援制度等の説明を実施。

3 活動成果

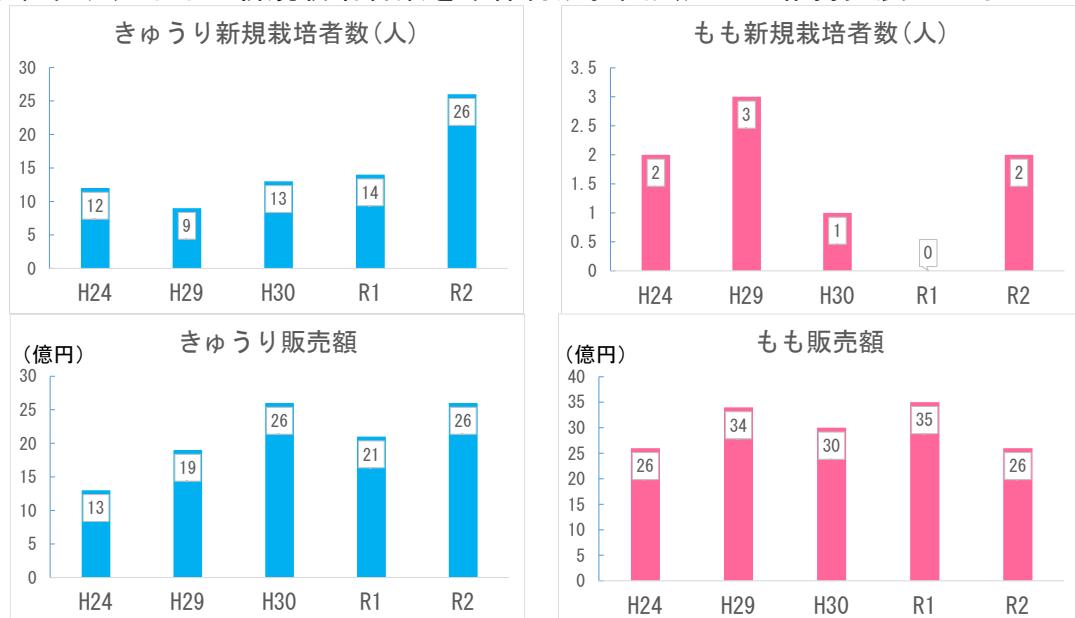
- 過去6年において新規就農者61名を確保。うち32名を認定新規就農者へ誘導支援した（平成27年～令和2年12月現在）。
- 高い就農定着率を維持。青年等就農計画達成者を9名育成（平成27年～令和元年）。



就農定着率
(H27～R1)
平均 91%

※令和2年度は12月中旬現在

- きゅうり、ももの新規栽培者数を確保育成。園芸産地の維持発展につながっている。



※令和2年度は11月20日現在

4 今後の活動・方向性

- 「農業次世代人材投資資金交付対象者のサポートチーム」や所専門担当で連携した個別技術指導により、就農計画の確実な達成に向けた支援を展開し、更には発展段階に応じて認定農業者への誘導を図る。
- 新規就農者の仲間づくりを支援し、青年農業者組織への加入を誘導、地域への定着につなげる。



伊達地域の基幹品目もも

伊達地域の多様な担い手の確保・育成